

第6学年 音楽科学習指導案

授業者 新潟県長岡市立大河津小学校

平出 久美子

1 題材名

「思いを歌声にのせて表現しよう ―歌おう！立ち上がろう！復興祈願フェニックス― 」

（教材曲：「フェニックス」 同声二部 弓削田健介作詞・作曲、協力 能登と長岡の児童生徒）

2 題材の目標

- (1) 「フェニックス」の曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりなどについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付ける。

【知識及び技能】

- (2) 「フェニックス」の旋律、音色などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。

【思考力、判断力、表現力等】

- (3) 曲の特徴にふさわしい歌い方を工夫して表現する活動に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組み、花火の歌に親しむ。

【学びに向かう力、人間性等】

3 本題材で扱う学習指導要領の内容

第6学年 A表現 (1) 歌唱

ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。

イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。

ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア)範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う技能

(イ)呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能

(ウ)各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能

（本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：

「旋律」「音色」)

4 題材観

能登地震を経験し、大きな被害を見聞きしたり、長岡花火の学習をして地域の方の願いを学んだりした

子どもたちにとって、平和や復興を願う歌詞に思いを寄せやすい。歌い始めは、なめらかなリズムと低めの音高による旋律、静かな伴奏でフェニックスのさみしさに立ち向かう思いを想像して歌うことができる。15小節からゆったりとしたリズム感のある掛け合いで、他パートの旋律と呼びかけと答えて語り合うように歌う楽しさを感じられる。25小節からの曲の山は、頭声発声が出しやすい音高からなる旋律で、よみがえったフェニックスが、堂々と大空を羽ばたく様子を想像し、高音域の響かせ方や声の音色を試行錯誤することができる。3度の和音→掛け合い→3度の和音へと、変化のある合唱で、音の重なり of 美しさや音の重ね方による感じ方の違いを味わいながら、知識や技能を高めていく。最後は高音域の音の重なりと華やかな伴奏により、フェニックスのよみがえりと花火のフィナーレを表現し、感動、復興、平和への思いを込めて歌い方を試行錯誤する姿が期待できる。

<教科等横断的な学習>

- ・総合的な学習…「長岡花火」をテーマにした学習で、長岡空襲と長岡の復興の様子について、空襲を体験した方や祖父母から話を聞くと共に、写真や市の記録文書、地図、表などの資料や戦災資料館での見学を通して調査する。自分たちが住む長岡市も、学校をはじめ、ほとんどの家屋が燃え尽きた地域もあることを知り、戦災の悲惨さに気付く。地域の方が平和・復興への思いを込めて花火を打ち上げていることを学び、長岡花火の魅力をまとめ、全国に発信するなど、積極的に社会に参画しようとする姿が期待できる。また、自分たちの思いと共に、長岡や能登の花火をイメージしてつくられた楽曲「フェニックス」の作曲家 弓削田健介先生の思いを考え、歌唱表現に生かそうとする姿が期待できる。
- ・社会科…日華事変から終戦、復興様子について調べる中で、長岡の花火大会は、戦争で亡くなった人を慰めるために始まったことを学ぶ。さらに、フェニックス花火は、東日本大震災の時、地震の被害に負けず頑張ろうという、人々を元気にしようという思いが込められており、大変な状況の中、花火大会が開かれたことを学ぶ。自分の地域の復興の様子を捉えた後、日本全体の復興の様子を調べ、長岡での学びを生かして、日本の復興に努力した人々の願いや今後の国際社会での日本の役割について意欲的に考える姿が期待できる。

5 児童の実態

(各学校の実態に応じる)

6 題材の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の内容との関わりについて理解している。 技 思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。	思 旋律、音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	態 曲の特徴を捉え、思いや意図に合うよう強弱を工夫して歌う活動に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

次	時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
第1次		(総合的な学習の時間に、長岡花火をつくっている方の思いや地域の方の思い、作曲家 弓削田さんの思いを調査し、「フェニックス花火」を鑑賞) ◎「フェニックス」の曲の特徴を捉えて歌う。			
	第1時	○「フェニックス」の歌詞の表す情景やリズム、旋律の動きなどの曲の特徴を捉える。 ・思考ツールを活用し、好きな歌詞や曲の好きな所、楽譜を見て特徴的な所を記録して、楽曲の雰囲気を感じ取る。 ・リズムや旋律の動きなど気付いたことをまとめる。 ・リズムや音程に気を付けて、楽譜を見ながら歌詞唱する。	知① 観察 記述		
	第2時	○「フェニックス」の曲の特徴を捉えて各声部を歌う。 ・リズムや旋律に気を付けて、主旋律を歌詞唱する。 ・副次的な旋律を、リズムや旋律に気を付けて歌詞唱する。 ・主旋律と副次的な旋律の各声部に分かれて、全員で「フェニックス」の歌詞唱をする。	技① 観察 記述 聴取		
第2次		◎歌詞、旋律などの関わりに気づき、どのように歌うか思いや意図をもち、表現を工夫する。			
	第3時	○旋律、音色などをよりどころにして、「フェニックス」の各声部の、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。 ・始めは斉唱、15小節目から掛け合いの合唱、3度の和音→掛け合い→3度の和音へと、変化のある合唱でになっていることを捉える。 ・25小節目からの曲想の変化の部分を、表現を工夫して歌う。 ○各声部に分かれ、呼吸に気を付けて自然で無理のない響きのある歌い方で音を重ねて歌う。 ・33小節目からの3度の和音がきれいに重なるように歌い方を試行錯誤する。		思① 観察 記述 聴取	
	第4時 本時	○「フェニックス」の旋律、音色、歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意図をもつ。 ・歌詞や旋律に着目して声の音色（発音・発声）をどのように工夫するか考えたり歌ったりする。 ○思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。 ・友達に表現の工夫を伝えたり、表現のよさを伝え合ったりする。	技② 観察 記述 聴取	思② 観察 記述 聴取	
第3次		◎思いや意図に合った表現を工夫して歌い達成感をもち、次の学習への意欲を高める。			
	第5時	○「フェニックス」への思いを込めて、工夫した表現を発信する。 ・思いを歌声にのせて、全校や地域へ自分たちの歌を表現する。			

8 本時の学習

(1) 本時のねらい

旋律、リズム、歌詞の内容などをよりどころにして、「フェニックス」の各声部の歌い方を工夫する中で、歌詞や旋律に合わせて発音や発声を変えるとよいことに気づき、音を重ねて自然で無理のない響きのある歌い方で歌うことができる。

(2) 本時の展開

段階	○学習内容 ・学習活動	発問・指示「 」 ◇児童の反応	※指導上の留意事項 ★評価
導入 【15分】	○比較聴取をして思いや意図を具現するための技能に気付く。 ・複数の歌い方を比較聴取する。	「歌い方を聴き比べよう。」 ◇ 口の中やのどの奥をあけて歌うと、やわらかい声の響きになる。始めの斉唱の部分で使ってみたい。 ◇歌詞の始めの言葉に準備音を入れて発音すると、歌詞がはっきりと聴こえる。曲の山で歌詞を強調した発音で歌いたい。	※口腔をあけた響きと閉じた響き（発声）、言葉の始めをはっきり歌った時とそうでない時の響き（発音）を比較聴取する。
展開 【35分】	○旋律、音色、歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意図をもつ。 ・歌詞や旋律に着目して声の音色（発音・発声）をどのように工夫するか考えたり歌ったりする。 ・友達に表現の工夫を伝えたり、表現のよさを伝え合ったりする。	◎思いが伝わるように発音や発声を工夫しよう。 「歌詞や旋律に合わせて、やわらかい発声や、はっきりとした発音で試してみよう。」 ◇歌い始めは、フェニックスに呼びかけるように歌いたいから、口の中をあけてやわらかい響きで歌おう。 ◇曲の山の「燃える翼で」からは、歌詞を強調したいから準備音を入れて言葉がはっきり伝わるように歌おう。 ◇タブレットに録音して聴いたら、だんだん伝わる表現になってきた。友達にも聴いてほしい。 「やわらかい発声や、はっきりとした発音で思いが伝わるか聴き合おう。」 ◇のどを閉めたきつい声だったけど、のどをあけたらやわらかい響きになって、フェニックスに優しく語り掛けている感じがした。曲の山もさらに響くように歌って、自分たちの思いや作曲家の思いを表現したい。 ◇「燃える」の前に準備音の「m」が入っているから、歌詞がはっきりして、旋律が上がる所で盛り上がり伝わった。自分たちも試してみたい。	※タブレットに録音したり、友達と聴き合ったりして、自分たちの歌声を客観的に聴くことができるようにする。 ※発音・発声の生かし方を価値付け、自分たちの表現に生かすことができるようにする。 ★旋律、音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（ <u>思</u> 観察・記述・聴取）
まとめ 【10分】	○思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。	「仲間のよさを生かして、さらに伝わる表現になるように試してみよう。」 ◇やわらかい響きとはっきりとした発音で、フェニックスの復興が伝わってきた。たくさんの人に聴かせたい。	★思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。（ <u>我</u> 観察・聴取）

9 本時の評価

旋律、音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもち、呼吸に気を付けて、自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌うことができる。

	A 十分満足できる	C 努力を要する
児童の様子	意図して表現の仕方を工夫したりそのよさを言語化したりしている。	音楽を形づくっている要素に着目して表現することができない場合は、教師が発音は発声を聴かせて、違いを問うたり、思いや意図を聞いて工夫する視点を例示したりする。

10 参考資料・文献

- ・ 国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 音楽』東洋館出版社
- ・ 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説 音楽編』東洋館出版社
- ・ 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版社
- ・ 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説 社会科編』東洋館出版社